

これから先も
みんなが決めつべな
長泥のことを

しぎはら よしとも
鳴原 良友

前飯館村長泥行政区長

昭和25年(1950)、飯館村生まれ。
原発事故による帰還困難区域に指定された
飯館村長泥行政区の区長を震災時から2020年3月まで務め、
国や東京電力との交渉に尽力した。

俺は^{ながどろ}長泥が好きだ。もう長泥のためにやるだけのことはやったと思っています。
国や東京電力と交渉し、帰還を必死に模索して苦しんだけれど、
子どもや孫の世代に受け継ぐことは現実には難しくなりました。
住民たちは各々の場所に生活の拠点が出来ています。
行政区長としては年に4回ほど区報を発行し、故郷の現状を伝えてきました。
俺たちにとっては離れて暮らしても故郷はやっぱり長泥。年に1度は、
0歳から90歳までの住民が集まって、思い出話や近況を報告し合っています。
長泥のことは「みんなが決めつべな」と、今までもずっと住民同士が話し合っ
て決断をしてきました。2020年はコロナ禍で開催できませんでしたが、
毎年みんなで食事をして踊ったり歌ったり、楽しい時間を過ごすんです。
現在、地区では除染した土の活用に向けた国の実証事業が進行。
どうか戻れない人々の「希望」になれるような再生をしてほしい。
10年がたち、ここで一区切りするのも大事なのではとも思う。
さまざまな意見があると思うけれど、何が正しかったか
100年後に答えが出ればいいのだろうと。
これからも故郷長泥を思い、見守り続けていきたいと思っています。



2013年2月より発行している
区報「まげねえどう」ながどろ